



地域課題を解決し、
社会の未来をつくる自分に出会う



社会学部2022年度卒業生 就職率96.7%!

不況の中においても、青森大学社会学部を3月に卒業した学生の就職率は96.7%でした。3年次からそれぞれが希望する仕事に就くことができるよう、学生本人の頑張りはもちろん、キャリア支援課やゼミナール担当の教員も履歴書作成の指導や面接対策、筆記試験対策など細かな指導を行ったことが、このように結果となって現れました。

<主な就職先>

- 青森県庁 ○横浜町役場 ○青森朝日放送株式会社 ○日本郵便株式会社 ○株式会社センコー
- 津軽海峡フェリー株式会社 ○株式会社バイタルネット ○トヨタ自動車東日本株式会社
- 青山会医療福祉グループ ○医療法人松田会 ○社会福祉法人宏人会 ○医療法人鶴豊会 他多数



卒業生から 後輩に向けてメッセージ

行動力、コミュニケーション能力(自分の場合は人前で話す力)とにかく自分から行動を起こすことが大事! 犯罪とかでなければいくらでも失敗しても良い、そもそも失敗とは捉えずに経験とする!(自分もプロジェクトの活動でたくさんやらかしてきましたが、それが就活で役に立ちました)。

大学で学んだことは、自分を表現していくことだと思います。高校とは少し違い、大学では授業によりますが、プレゼンやグループワークなど時間内に自分が言いたいことをいか上手く説明していくのが大切でした。私は人前で話すことがなによりも恥ずかしさがあり苦手だったので、プレゼンやグループワークもあまり得意ではありませんでした。ですが、ゼミやその他の授業を通して経験を積んでいくことで、最初よりも自分に自信がもてるようになり、表現力も培われました。

青森大学では、部活だけではなく、学ぶ楽しさ、学び方など、たくさんの成長が感じられました。

入学時と今現在、進みたいと思っていた道は全く違います。それでも、4年間過ごしてみて、自分がやりたい、進んでみたいと思える道を見つけることができました。厳しく、難しい道です。それでも、挑戦してみたいって思えるのは、この4年間、どんなに厳しくても、難しくても、諦めずに続けてきたからかもしれません。

連絡と決断は、早めにするのを学んだ。自分に「できなかった」「やらなかった」ことを「できる」「やれる」ようになったことで、「まだ成長できる」と考え、行動するようになったことが成長したと感じます。

社会学部での活動の一部をご紹介します!

青森大学 社会学部 NEWS

Faculty of Sociology

03

社会学部の新入生 大学生生活をスタートしました!!

4月2日(日)に2023年度の入学式が挙行され、社会学部には青森キャンパス、むつキャンパス、東京キャンパスで合計73名の新入生が入学しました。さっそく4月3日(月)から新入生に向けた学生生活に関するオリエンテーションや教務(学習)に関するオリエンテーションが行われています。

新入生は、高校とは違う大学生としての生活に戸惑いながらも、これから一歩ずつ大学生らしくなっています。これからの4年間で共に過ごす仲間作りの一環として、社会学部(青森キャンパス)では、「ワークショップ」を行いました。このワークショップでは「トークフォークダンス」というワークに取り組みました。初めて会う仲間と、順番にトークテーマに沿って話をする、という内容です。はじめは照れながらも、時間がたつにつれて話が盛り上がり、あっという間の90分でした。



入学式後の社会学部三者説明会の様子



ワークショップトークフォークダンスの様子



教務ガイダンスの様子

授業紹介

コミュニティ創生コース:社会調査実習



社会調査実習のフィールドワーク風景

社会調査実習は、「社会調査士」資格の取得に必須の科目で、最終関門ともなります。調査を企画、実施して報告書を執筆し、さらに報告会を開くという一連の流れを学びます。青森大学が2013年度から続けている、交流をベースとした教育・研究・地域貢献プロジェクト「幸畑プロジェクト」の受け皿でもあり、調査実習を通じて団地内の空き家の状況、住民の意識、安全・安心、そして「幸畑ねぶた」の運営などに関する知見が蓄積されてきました。2023年度は10人が履修し、学生たちは2班に分かれて団地の状況を確認しながら、団地を

基点に活動する青森市の移住コーディネーター・黒竹健司さん、幸畑団地まちづくり協議会の張山喜隆・運営委員長らと意見交換していました。